

POPS/FUSION GUITAR CONCEPT

オールマイティがポップスの条件。

■Bodyのソリッド(メイプルトップ/マホガニーバック)

ポップスやフュージョンの場合、使われるギターサウンドのヴァリエーションは大変広い。クリーンな音でのメロディ、シャープでアタックした音でのカットイン、軽い重みでバッキング、深い重みでのソロ……等、あらゆる演奏スタイルでそれぞれに適した音色を使い分けなければならない。また、このように幅広い音作りのためには、アンプのチャンネルの切替えやエフェクタの多用が必要になってくる。ギター自体はいえれば、どんなにエフェクタ処理を施しても元のキャラクターを失わないよう、芯の通った存在感のあるものが理想的だ。深い重みの時には充分なアタック感とサステイン、クリーン時にはシャープなメロディを使い分けられるようなサウンドが欲しい。このような要求にピッタリなのがメイプルトップ/マホガニーバックのソリッドボディだ。

ブリッジからの振動を固いメイプルボディの隔りまで伝え、柔かいバックのマホガニーを振動させる。というヤマハ伝統の技術を活かした機種がMG-IR、SG、IMAGE。出力された音は、どんなにエフェクタ処理しても、どれ程幅広いサウンド・レンジでも、元来のギターとしてのキャラクターを失う事のない、暖かい芯のある音だ。エフェクタやサウンドメイキングでギター自体のカラーが塗り潰されてしまうような存在感の薄いギターではない。

■Neck Jointの好みに応じて

ネックとボディの接合方式やネック自体の材質はギター全体のキャラクターを決める大きなファクター。たとえばMG、SG、IMAGEの3機種では次のような違いがある。

MGはメイプルネックをボルトオン・ジョイント、カナルで今風な音とシャープなアタック感が特徴だ。

SG-3000、2000はTクロスメイプル・コンストラクション・ネックのスルー・ネック。これは日、米、英、西独の特許を持つ方式で、T字型に組合わせたメイプルにバック材のマホガニーをラミネートしたネックによるスルー・ネック構造。メイプルトップ/マホガニーバックのボディの長所をネックにまで活かした画期的なものだ。スルー・ネックならではのサステインと、独特な構造による豊かな鳴りが特徴だ。

SG-1000、IMAGEはマホガニー・ネックのセット・イン・ネック構造。最もクラシカルな方式だが、メイプルトップ/マホガニーバックとのコンビネーションで独特の粘り感と芯のある音が特徴となっている。

なお、これらの3機種は、MGが648mmのロングスケール、SGが628mmのミディアムスケール、IMAGEが635mmと両者の中間のスケールを採用している。幅広く様々なスタイルを要求されるポップスやフュージョンの場合、自分のプレイにフィットするスケールを選んでみるのも大切かもしれない。

■Tremoloのノンロック式or色々好みにより

ポップスやフュージョンでは、ハードロックのようなトリッキーで派手なアーミングより、ナチュラルなリリック具合のオートロック式なプレイがポピュラー。ナチュラルなアーミングならノンロック式がベスト。ロックでも同じ目には使えないが、実はそう思う者も多いかも知れないが、実はそうではない。あの結ばれたようなアーミングニュ

アンスはノンロック式ならではのもの。MG-IIIに採用されたノンロック式トレモロ・ユニット、Vintage-DXは、シンプルな2点支持方式によるもの。MG-I、IIに採用されたノンロック式トレモロ・ユニット、Vintage-Proは、DXの発展型。支脚部にニードル・ベアリングを採用し耐久性と安定性を高め、更にナチュラルなアーミングニュアンスを生んでいる。

自分の演奏スタイルにアーミングが必要ないならアームレスも良い。SG、IMAGE-Standardは定評あるストップ・テールピースを採用。IMAGE-Standardでは、2way Tail Pieceにより、ボディ裏から弦を通す事も可能。たとえば3、6弦または2、3、5、6弦をボディ裏から通せば、これまでのストップ・テールピースでは味わえなかったイープなディセンションバラスが得られる。

また、よりロック色の濃いスタイルには思いついてロック色のユニットも良いだろう。MG-K、IMAGE-Deluxeはロック式トレモロ・ユニットの最高峰。Rock'n'Magic-Proを搭載したマニアックなモデルだ。ロック式ユニット特有のシャープなトーンを好む者に向いているだろう。

■P.U.のSPINEX、LIVE、FOCUS

このジャンルでは幅広い音作りのためにはレンジの広さが、エフェクタ処理のためにはエフェクタのりが良く、しかもどんなエフェクタ処理でも原音のニュアンスを失わない芯のある音が必要とされる。SPINEX、LIVE、FOCUSはこれらの条件をクリアする高品位のP.U.。SPINEXは特に大音量のプレイに向き、LIVEはシングル、ハムとも中域に張りある粘り強い音、FOCUSはレンジが広い感じのクリアした音だ。メモリーなプレイスタイルにはSPINEX、シャープなプレイスタイルにはFOCUS、両者の中間ならLIVE、と見ると良いだろう。なお、SPINEXはMG-KやLIVEはMG-IRとIMAGE、FOCUSはMG-Iに採用されているP.U.だ。

■P.U.アレンジメントのSSH、HH、SSS

エフェクタ処理による幅広い音作りだけでなく、ギター自体のP.U.セレクトにも幅広い音作りがこのジャンルには大切なポイント。たとえばシンプルなHHのSGやIMAGEでシングルサウンドが欲しいの

なら、ハイサウンドSWでハムバッキングをシングルとして機能させれば良い。シンプルなHHとしては、3PセクターとバイサウンドSWによりP.U.のサウンドヴァリエーションはSGで8通り、IMAGEで6通りにもなるから、必要十分な事は判ってらえるはずだ。

シングルP.U.2つをミックスした独特の“ハーフトーン”や、シングルP.U.本来の音が欲しい場合は、MGに採用され、今最もポピュラーといわれるSSHがいいだろう。5PセクターとバイサウンドSWによりP.U.のサウンドヴァリエーションは7通りだ。

このジャンルでは、ハムバッキングの音を全く使わない事も多い。そんな時はもちろん、SSS、MG-II、MG-III、MG-Kが採用しているが、3PセクターにP.U.を2つをミックスする事で従来のSSSでは不可能だったリア+フロント、リア+ミッド+フロントのコンビネーションが可能。ヴァリエーションは7通りになる。



Through Neck (T-Cross Maple)



"FOCUS" Series P.U.



Vintage-Pro



Vintage-DX



MG series Photo: MG-1M



IMAGE series Photo: IMAGE Deluxe



SG series Photo: SG-2000

BEST POPS/FUSION GUITAR

- RGZ series
- SG-RR custom
- SA-RR series
- SAS series

JAZZ/BLUES GUITAR CONCEPT

ファットな鳴りがジャズ&ブルースの技。

■Bodyのホロウorセミホロウ

ジャズで使われるギター・サウンドは、重みが無くクリーンで限りなくファットなサウンド。サステインはそれ程必要とされない。ハードロックとは対称的なこれらの要求を満たすのがホロウ・ボディのAEだ。ホロウ・ボディならではのギター本来のボディの鳴りを活かすために、ボデートップにグラブピエの響板と同質のスプルースを採用し、ヤマハ伝統の木工技術で丁寧に仕上げられたボディは、ギター全体の振動を100%ボディに伝わり、ジャズならではの深み豊かなトーンをクリエイト、ピッキングの強弱、微妙なヌラー等のアーティキュレーションの音への忠実な再現は、ホロウボディならではのものだ。

ブルースで使われるのはクリーンと軽い重みのリード・サウンド、チューニングやハンドピッチを効果的に音に変える粘りと、サステイン・トーン自体の響き力に要求される。フロントポジションではジャズと同様のファットなメロディ・サウンド、リアポジションでは鋭い(ブリ)なサウンドという、一見相反するトーンが必要なブルースの特徴。これらにピッタリなのがセミホロウボディのSA、SAS、SASと他社のコンビネーションによるアチトップを採用し、フルホロウ・ボディに匹敵するフロントポジションの音を生む。また、ボディセンターにアルダーのセンターブロックを配した事で、特にリアポジションでのシャープなメロディとレスポンス、サステインを獲得。ブルースの幅広い音創りの可能性を上げ、ハウリングに強くなる。

■Tremoloのアームレス

アーム全盛のギターシーンだが、ジャズやブルースにはアームは無し。アームレスのギターが当然だ。アームレスの場合、ブリッジとテールピースの構造は3通り、AEに採用されたブラコ型テールピース

ス、SA、SASに採用されたストップ・テールピース、SG-RR等に採用されたブラコ型テールピースは、ボディの鳴りを重視したギターに用いられるが、テンションの強弱で多少タッチを軽くする効果もあるため、レギュラーやヘビーゲージの弦を使うジャズには最適だ。なおAEシリーズは木の鳴りを完全に活かすためのクラナディアロエボニーブリッジと、シャープな音を出すダイキヤット製のブリッジとを標準装備。好みに応じて選べる。

ストップ・テールピースは、SA、SASの他ではSG、IMAGEに採用されている。フルホロウ・ボディに比べてボディの振動を得にくいセミホロウ・ボディのボディをより振動させやすくする構造を持ち、サステインも得意な。SA、SASではストップ・テールピースとブリッジは、セミホロウ・ボディに配したセンターブロック上にマウントされるため、ブリッジ・ボディに匹敵するサステインとシャープなサウンドに貢献している。

■P.U.のハムバッキング

ファットな音が命であるジャズ&ブルースならP.U.はハムバッキングに限るが、ホロウ/セミホロウ・ボディのボディ鳴りを忠実に伝えるためには、P.U.自体で音の色付けがされない、素直な特性のモノが望ましい。AE、SAに採用されたSAHシリーズ、ハムバッキングは、ヤマハ伝統のスタンダードP.U.。豊かなボディ鳴りをストレートに伝える。なお、小振りのセミホロウボディを持つSASには、そのシャープなボディ鳴りとマッチングからLIVE、YAMAHA SELECT by EMGのP.U.をマウント、それぞれ個性豊かなASサウンドをクリエイトしている。

■P.U.アレンジメントのHH

ジャズやブルースの音創りは幅広い大きな音色チェンジよりも、ヴァリウム・ペ

ンによる微妙な音色の調整がポイント。そのためには最もシンプルなH構成がベスト。SA、AEではトックス・ポジションでのフロントとリアのバランス次第で様々なニュアンスが自在にコントロールできる。



Semi-Hollow-Body



"AE-2000" Solid Carved Spruce Top



Stop tail piece

BEST JAZZ/BLUES GUITAR

●IMAGE series ●SG series



SA series Photo: SA-1100

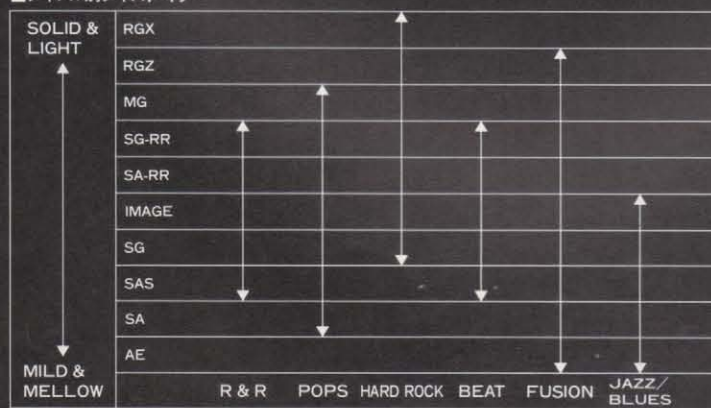


AE series Photo: AE-1200S



SAS series Photo: SAS-1

■ジャンル別ジャスト・ギター



※本コラム中のP.U.アレンジメント欄にあるSSH、HH等の符号はピックアップ配列を示します。Sはシングルコイルピックアップ、Hはハムバッキングピックアップです。